

# Singapore Investment News

シンガポール EDB 経済・投資ニュース  
October–December 2010

Photo courtesy of Urban Redevelopment Authority. All rights reserved

<http://www.singaporeedb.jp>

特集 1 | Food and Nutrition Business

## 食品産業の一大拠点、アジアの旺盛な食需要をとりこむ

アジア市場向け製品開発に適したシンガポール

人口 30 億人のアジアは、世界一大消費者市場として拡大を続けています。急速な発展により人々の暮らしが豊かになったことで、食品・消費財の需要も増大しています。アジアでの旺盛な需要を取り込もうと、世界の食品メーカーや栄養製品メーカーは、地理的そして文化的な「アジアの十字路」であるシンガポールに注目し、商品製造や研究開発 (R & D) 拠点を次々と設置しています。

英調査会社データモニターによると、2009 年の世界食品産業の市場規模は前年比 1% 増の約 356 兆円 (4 兆 2,354 億 USD) で、2014 年には約 441 兆円 (5 兆 2,552 億 USD) に拡大すると予想されています。そして、この拡大の大部分がアジアの成長によるものといわれています。中国、インドネシア、インドなどを含む広大なアジアは、食の好みや栄養要件が各地域また同じ国でも異なることがあり、アジアで市場拡大を目指す企業にとっては、アジアの消費者全体を理解しつつ個々の市場の嗜好や栄養ニーズに

あった商品開発を行うことが成功への鍵となっています。

企業にとって域内事業を効率的に統括できる場所を見つけることは重要ですが、それと同時に、アジアの消費者特有の嗜好や需要を理解している地元企業との連携も重要になってきます。市場調査や味覚、嗜好動向調査などを手がける企業と手を組みリソースを活用できれば、アジア内にある個々の市場の需要を理解できるようになるからです。

### アジア向けの研究開発、製品製造

卓越した科学技術力、充実した知的財産保護制度、食の安全に関する高い基準などを持つシンガポールは、アジアの旺盛な需要拡大の波に乗ろうとする食品メーカーや栄養剤開発企業にとって理想的なビジネス環境といえます。

米製薬大手アボット傘下のアボット・ニュートリション (Abbott)



Pfizer 製造プラント



Nutrition) は、バイオポリスに米国外で最大となる R & D センターを設置し、地域の栄養ニーズや嗜好の研究に取り組むほか、幼児、小児、成人用の栄養製品の開発を科学基盤に基づいて行っています。ファイザー (Pfizer) も 2010 年 6 月にシンガポールの栄養食品工場の生産能力を 50% 拡大し、最新技術を導入した世界最大級の工場で高品質な乳製品や粉ミルクを生産し、シンガポールをはじめ、中国、インドネシア、香港などへ出荷しています。

## 新ブランドの開発、実証実験の拠点

アジアの消費者の嗜好がより洗練され、さらに良いものを求めるようになってきている中、食品、栄養製品メーカーは変化するニーズを捉えるため、多文化・多民族国家であるシンガポールで新製品の開発に取り組んでいます。

米ハンバーガーチェーン大手のバーガーキング (Burger King) は、シンガポールのアジア統括本部を活用し、新しいコンセプト店舗や新製品の開発を行っています。シンガポールの若年層を対象にした第一号コンセプト店舗を立ち上げると共に、同社の看板商品である「ワッパー (Whopper)」をアジア消費者向けにアレンジし、シンガポールの実験調理施設から届けられた作りたてが味わえる「ワッパー・バー」もオープンしました。今後は他のアジア地域でのコンセプト店舗立ち上げも視野に入れています。

世界食品メーカー大手と地元企業との連携も広がっています。食品業界最大手のネスレ (Nestle) は、漢方薬品会社の余仁生 (Eu Yan Sang) と提携し、濃縮薬膳スープ「Yang Sheng Le」を開発しました。食の関心が高いシンガポールの消費者に新製品を投入することで市場の反応を観察し、アジアの他地域への導入も予定しています。飲料メーカー、ポッカも地元機関と連携した商品開発に力をいれています。シンガポール・ポリテクニクの学生と商品の共同開発を行い、新ブランド「Elderflower Tea」を立ちあげています。Elderflower の飴からヒントを得た学生たちは、香り、お茶の成分やお茶を煎れる温度などの研究を本格的に開始し、ポッカに製品提案を行いました。それをうけポッカでは、この



Burger King コンセプト店舗

商品の研究開発をさらに進め、2008 年に商品化を行いました。2009 年 10 月時点の販売数は、ブルネイ、オーストラリアなど 5 カ国で 50 万本、近くインドネシアでも販売する予定です。

アジア市場向けの商品開発を行うに理想的かつ戦略的なロケーションに位置するシンガポールは、市場開拓を目指す食品、栄養業界の力強いパートナーとして、引き続き取り組みを強化していきます。

## Singapore Business Topics

### 米アボット、栄養食品研究開発センターをバイオポリスにオープン

米医薬品大手アボット (Abbott) は、バイオポリス内に栄養食品の研究開発 (R & D) センターをオープンしました。栄養食品の研究開発に特化する研究センターとしては米国にある施設を除いて最大で、シンガポール初の施設となります。アボットはここ 1 年半でアジア・太平洋地域における事業拡大を急速に進めており、シンガポールの R & D センターは地域で 5 番目の拠点となります。

製品開発の対象は乳児から成人で、アジア太平洋地域の消費者の栄養ニーズや嗜好に合わせた製品を、新しい素材や風味、包装を用いて研究します。また、アジア・太平洋地域では満たされていない医療ニーズがあることから、地域全域で総合的な臨床試験を設計・実施し、この分野の科学情報の取得も目指します。

アボット・ニュートリションの Holger A. Liepmann 副社長は、健康における栄養補給の役割の重要性を強調し、「消費者の嗜好や好みに関するナレッジを科学的に組み合わせ、消費者が恩恵を受け、かつ楽しむことのできる商品開発を行う」と意欲を見せています。



Abbott Nutrition 研究開発センターの開設にご出席：Dr. Robert Miller (Divisional Vice President for R & D, Nutritional Products, Abbott), Mr. Leo, Yip (Chairman Economic Development Board), Mr. Holger Liepmann (Executive Vice President, Nutritional Products, Abbott), Mr. David Adelman (Ambassador of the United States of America to Singapore), Dr. Pradip Mukerji (Center Director, Pacific-Asia R & D, Nutritional Products, Abbott)